



## 第7章 平成22年度科学研究費補助金・基盤研究（S） ：「大規模災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」の研究支援

三村, 昌司

---

**(Citation)**

歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業, 9(平成22年度事業報告書):47-48

**(Issue Date)**

2011-03-31

**(Resource Type)**

report part

**(Version)**

Version of Record

**(URL)**

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002931>



域文化の保全・活用に寄与できる教員養成に努めていく予定である。

(文責・河島真)

### 博物館学関連科目の変更にに向けて

平成 24 年度に博物館法施行規則が改正されるのにもなつて、学芸員資格取得に必要な博物館関連科目も変更されることから、教務委員会内にワーキング・グループを設置し、関係教員と対応を協議した。

(文責・古市晃)

### 第6章 平成22年度文部科学省・大学院教育改革支援プログラム「古典力と対話力を核とした人文学教育」との協同

人文学研究科の大学院教育改革支援プログラム(院プロ)は事業として最終年度をむかえ、これまで以上にイベント等が活発におこなわれた。

そもそも院プロでは「四つの場」として、①古典ゼミ、②コロキウム、③古典サロン、④フォーラムがあり、それに加え授業として「古典力基盤研究」と「古典力発展演習」が設定されている。

以下は、今年度の院プロ関連の事業である(他の項目で記述したものは簡潔に記した)。

#### (1) 授業(古典力発展演習Ⅱ)

これは伊丹市立博物館における展示「平成 22 年度秋季企画展 阪神・淡路大震災 15 年 伊丹からの発信」(2010 年 10 月 2 日～11 月 21 日)の展示協力・展示作成である。これは前期の大学院博士課程の科目として展開した。詳細は別項を参照されたい。

#### (2) 古典ゼミ「兵庫津・神戸研究会」

本年度の「兵庫津・神戸研究会」では、水内俊雄・加藤政洋・大城直樹『モダン都市の系譜』(ナカニシヤ出版、2008 年)の輪読会をおこなった。参加人数は毎回 4 人～7 人であり、大学院生だけでなく学部生も参加した。日程は以下の通りである。

① 5 月 24 日、② 5 月 26 日(兵庫県立美術館「写真家中山岩太展」見学会)、③ 6 月 7 日、④ 6 月 21 日、⑤ 7 月 7 日、⑥ 10 月 25 日、⑦ 11 月 8 日、⑧ 3 月 16 日。

本古典ゼミは、神戸や兵庫だけではなく、海

港都市をどのように考えるかというテーマがあった。参加者が日本史専攻に限られていたことから、院プロの主題の一つである学際的な議論は難しかったが、毎回白熱した議論が展開された。

#### (3) 古典サロン

今年度も古典サロンとして生野合宿が 2011 年 2 月 19 日から 20 日におこなわれた。詳細は別項(第 5 章)を参照。

#### (4) フォーラム

2010 年 12 月 7 日に「兵庫津・神戸研究会主催フォーラム『LINK』第 2 号書評会」がおこなわれた。報告者は三村昌司氏「特集「“地域の再生”と歴史文化」論評」、河野未央氏「史料ネットの災害対応に寄せて」、コメントは山本康司氏「『LINK』に関する感想」であり、参加者は 31 人であった。

このフォーラムでは地域の再生をどう考えるかということについて様々な角度から議論がなされた。そもそも地域の再生とは何を指すのか、そこに歴史文化というものがどう関わられるかという問題が投げかけられた。

同じく、フォーラム第 9 回地域連携協議会(2011 年 1 月 30 日)については、別項(第 1 章)を参照されたい。(文責・深見貴成)

### 第7章 平成22年度科学研究費助成金・基盤研究(S)「大規模自然災害時の史料保全論を基礎とした地域歴史資料学の構築」の研究支援

2010 年 4 月からスタートした上記のテーマの科学研究は、今年度のテーマを「地震時の資料保全論を中心とした地域歴史資料学の提示」として、さまざまな研究活動を展開した。以下、特に神戸大学関係の研究活動について記す。

■地域歴史資料学の研究成果としては、まず、5 回の地域歴史資料学研究会を開催した。内容は、第 5 回「震災関係行政文書に関する整理と保存に関する研究会」(2010 年 5 月 28 日)、第 6 回「地域史料の日韓比較」(7 月 12 日)、第 7 回「地域歴史資料学の構築にむけて」(8 月 11 日)、第 8 回「県内文化財防災体制構築研究会」(9 月 28 日)、第 9 回「音声記録の調査をふまえた地域歴史資料学の一考察」(2011 年 2 月 24

日)である。

■また、兵庫県立博物館でのミニ展示「水損した歴史遺産を救う― 2009 年台風 9 号豪雨被災古文書を中心に―」(2010 年 3 月 2 日～5 月 5 日)の共催、被災地フォーラム in 宮城への参加と被災地調査(2011 年 11 月 13・14 日)も行った。

■全国各地の歴史資料保全論調査としては、静岡県教育委員会・山口県防府市、香川県観音寺市、神奈川県山北町、鳥取県日野町、福島県福島市、新潟県新潟市などに赴いた。

■地域歴史資料学の国際的な展開としては、研究代表者奥村弘・特命講師松下正和の両氏がドイツ・オーストリアへ出張し、隣接する地下鉄工事の影響で倒壊したケルン文書館の視察、地域史料の海外における活用事例などを視察した(2010 年 8 月 17 日～26 日)。ほかに、研究分担者の佐々木和子氏が ICA(国際文書館評議会)総会に参加(2010 年 9 月)、東京文化財研究所で開催された第 34 回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「『復興』と文化遺産」で奥村弘氏が第 1 セッション「災害からの復興」の議長をつとめるなどした(2011 年 1 月 19 日)。

■被災史料保存の技術研究については、全国 13 ヶ所で水損史料修復ワークショップに主催・協力した。また、史料の裏打ち作業のワークショップを、株式会社工房レストアの協力を得ながら人文学研究科内で開催した(2010 年 6 月 29 日)。そのほか、襖の下張り文書剥がしの方法や、迅速な現状記録の調査方法についても、実践的な研究を行っている。

■これら今年度の研究活動については、2011 年 3 月 6 日に行われる総括研究会で検討したうえで、平成 22 年度報告書にまとめられる予定である。

(文責・三村昌司)

## 第8章 平成22年度～24年度特別研究

### 「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」事業

人文学研究科では、平成 22 年度～24 年度の 3 年間、文部科学省より特別経費の交付を受け、本センターを基軸にして、特別研究プロジェクト事業「地域歴史遺産保全活用教育研究を基軸とした地域歴史文化育成支援拠点の整備」を開始させた

(そのための専任教員は坂江渉特命准教授・村井良介特命助教・添田仁特命助教の 3 名)。その主たる目的は以下の 2 点である。

- (1) 人文学研究科地域連携センターを軸にして「地域歴史文化連携コンソーシアム」を設置し、地方自治体と個別に行ってきた地域連携事業を相互調整し、全国のモデルとなる地域歴史遺産の保全活用の実践的研究を深化させる。
- (2) 地域連携事業の場を学生の教育フィールドとして利用するとともに、地域歴史文化を次世代へ継承するため、社会人も含めた体系的な人材教育をおこなう。

これにもとづき 2010 年 6 月 28 日(月)、これまでセンターが個別の連携事業を展開してきたいくつかの自治体、市民団体、学内団体等とともに、「地域歴史文化連携コンソーシアム」を立ち上げ、上記の(1)と(2)の課題を具体化させるための報告、および問題提起をおこなった。

この 1 回目のコンソーシアムでの議論を通じて、①文化財や地域遺産を活用したまちづくりに携わる人材の育成、②全県的な史料群データベースの整備、の 2 つの事業をすすめていくことが決定。以下、それぞれの事業の進捗度合いについて記す。

なおコンソーシアムに参加する団体は、現在のところ、以下の 25 機関である。

■兵庫県教育委員会文化財室、兵庫県立考古博物館、兵庫県立歴史博物館、朝来市教育委員会、尼崎市立地域研究史料館、伊丹市立博物館、小野市立好古館、加西市教育委員会、香寺町史研究室、神戸市立中央図書館、神戸市立博物館、神戸市立文書館、神戸市立埋蔵文化財センター、神戸新聞社、神戸深江生活文化史料館、三田市(市史編さん担当)、佐用町教育委員会、たつの市教育委員会、丹波市春日町柵原自治会パワーアップ事業推進委員会、福崎町教育委員会、神戸大学経済経営研究所、大学院人文学研究科、同地域連携センター、神戸大学地域連携推進室

#### (1) 地域歴史文化を担う人材育成事業

■「まちづくり地域歴史遺産活用講座」試行プログラムの実施(2回)

□第 1 回・2010 年 12 月 18 日(土)-19 日(日)  
姫路市香寺町にて開催。

□第 2 回・2011 年 2 月 19 日(土)-20 日(日)